

お客さまと地域・社会に一層貢献する人材を育成するために

人材育成に関する生保労連の考え方

※「めざす姿」は、2013年度に設置した「生保産業に求められる人材に関する検討プロジェクト」で取りまとめたものです。

産業・企業の明るい未来を切り拓いていくためには、働く者の能力や働きがいの向上が不可欠です。仕事への誇りと高い使命感に裏打ちされた働く者一人ひとりの能力発揮・役割発揮を進めること、いわば「人材づくり」なくして産業・企業の発展はありません。

わたしたちは、今一度「人」という原点に立ち返り、生保産業で働く従業員一人ひとりが働きがい・生きがいを一層もって、さらに役割発揮していくために、以下の「めざす姿」の実現に向けた取組みを通じて、お客さまと地域・社会に一層貢献していきたいと考えています。

わたしたちがめざす姿 ～「意識・能力・活動の好循環」によるさらなる役割発揮をめざして～

お客さまに最適な保障を提供し地域・社会の負担に一層応えていくためには、働く者が共通する意識をもち、お互いに連携・サポートし合うとともに、一人ひとりが仕事のレベルアップをはかる必要があります。



お客さま、地域・社会

貢献

意識が高まることで能力を高める必要性を認識し、活動の質を上げていく。さらに、日々の活動で得た経験ややりがいが意識と能力を高めていく。このような好循環が、仕事のレベルアップをはかるうえで不可欠と考えています。



労働組合の役割

- ◎従業員一人ひとりの「意識・能力・活動の好循環を通じた仕事のレベルアップ」の実現に向けて積極的に労使協議を行い、必要な対応を会社に要請
- ◎従業員が総力を挙げて役割発揮していくため、職種間や職場のコミュニケーションを促進・サポート
- ◎従業員からの相談に対応できる体制づくりを進めるなど、一人ひとりの役割発揮をサポート